

平成29年度

運営に関する計画

大阪市立十三小学校

大阪市立十三小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現
 - ・ 「安心ルール」を試行的に実施したり、校内のきまりを意識できるように継続して指導したりしてきた結果、ほとんどの児童は、ルールやきまりの必要性を理解し、みんなで守ろうとする態度が育つてきている。なかよし班活動や異学年交流により、学年をまたいで仲よく活動することができている。ただ、仲が良い反面、おしゃべりをしたりふざけ合ったりするなど、緊張感のない態度も目立つ。子ども同士の人間関係は良好ではあるが、さらに一歩進めて高学年にはリーダー性を育てたいと考える。そうすることで、いじめ問題やきまりの遵守に対して、責任感や使命感を持ってより主体的に関わる子どもたちを育てていきたい。
 - ・ 道徳心・社会性の育成については、これまでにも道徳の時間を授業参観で保護者・地域の方々に見ていただきたり、指導教諭による公開授業・研修会を通して、よりよい授業づくりをめざしたりしてきた。また、親切・思いやり週間を実施して具体的な取組をすすめてきた。その結果、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を考えて行動できる児童が増えてきた。今後は、さらに実践的な態度が育つよう、道徳教育についての研究に全教職員で取り組みたい。そして、話し合い活動を通して、より多面的に物事を捉えたり、互いに考えを練り合ったりしながら、自分の考えをしっかりと持って行動することができる子どもを育てていきたい。
 - ・ 区全体の取組でもある睡眠習慣の改善については、アンケートの結果、決められた時刻までに寝ていると答えた児童が45%と目標を大きく25%も下回る結果だったので、今まで以上に学校の情報を保護者・地域に発信するなどの働きかけを積極的にし、保護者との連携を密にしながら取り組み方を再検討し、改善につなげていきたい。
- 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上
 - ・ 学力・体力共に二極化が見られ、全体としても十分には成果が上がっていない現状である。特に、「20mシャトルラン」の結果については、全国平均を15ポイントも下回っており、子どもが十分に自分の「力を出し切る」ことができていないのではないかと思う。したがって、今後は、持っている学力や運動能力を継続して發揮することができるよう支援していきたい。端的に言うと、「持続力」を育て高めていくことをめざす。そのためには、指導の丁寧さが甘さになっていないか点検し、基礎・基本が確実に身につくようにできるまで指導を継続する。また、個人カードやカルテを活用することで、子ども自身が自分の力の伸びが分かるようにしていく。
 - ・ 学習面でも運動面でも、よい姿勢が維持できない子どもが目立つ。姿勢の指導を継続して行うが、よい姿勢を長時間保つために、スタイルキッズ椅子などを用意することができればと考えている。また、興奮した時などに心を落ち着かせ、集中力を高めるために、個室ルームのようなものを設定できればと考えている。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

(施策2 道徳心・社会性の育成)

- 平成32年度の学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

- 平成32年度の学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間450人以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、100以上にする。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)
- 平成32年度の学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

(施策6 国際社会において生き抜く力の育成)

- 平成32年度の学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子53点以上、女子56点以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1, 2年）」「9時30分までに寝ていますか（3, 4年）」「10時までに寝ていますか（5, 6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を90%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

(施策2 道徳心・社会性の育成)

- 学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
- 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

- 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間400人以上にする。
- 学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率6割以下の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。
- 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率7割以上の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。
- 平成29年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
- 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より10ポイント向上させる。

学校の年度目標

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

（施策6 国際社会において生き抜く力の育成）

- 学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子50点以上、女子53点以上にする。
- 学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1, 2年）」「9時30分までに寝ていますか（3, 4年）」「10時までに寝ていますか（5, 6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立十三小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○ 平成29年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を90%以上にする。 ○ 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 ○ 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。 	
学校の年度目標	
(施策2 道徳心・社会性の育成)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 ○ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 	
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間400人以上にする。 ○ 学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 児童の互いを認め合う態度を育て、いじめは絶対に許されない雰囲気を学校に醸成する。 指標 ① 「いじめについて考える日」を年1回実施し、児童が友達を大切にする心を養う。 ② いじめアンケートを児童に年3回、保護者に年2回実施し、いじめがあれば、解消に向けて全教職員で取り組む。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校のきまりを守ることについて生活目標を設定し、日常的に繰り返し指導する。 指標 ① 毎週、生活目標についてアンケートを実施し、達成状況を確認する。 ② チャイムの合図を守る児童を80%以上にする。	

<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>「学校安心ルール」を児童・保護者に周知し、暴力行為を許さない雰囲気を学校や学級に醸成する。また、様々な問題を話し合いで解決できるようにする。</p>	
<p>指標 「何か問題が起った時に話し合いで解決している」と答える児童を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童の小さな変化に気付き、様子がいつもと違う場合には、管理職、養護教諭やスクールカウンセラー等に相談し、対応する。</p>	
<p>指標 月に1回の職員会議や児童理解研修会で、児童の様子について全職員で共通理解を図る。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科・領域で話し合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行うことにより、だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。</p>	
<p>指標 ① 年間指導計画に基づいて学習指導要領に示されている全ての項目を指導する。 ② 年2回「親切・思いやり」週間を実施し、自分自身を振り返る活動を行う。</p>	
<p>取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自尊感情を高めるとともに、互いを認め合う態度を育てることができるように、年間計画に基づいて人権教育を実施する。</p>	
<p>指標 ① 月1回以上、なかよし班活動や児童集会などの異学年交流を図り、互いに理解し学び合う機会を設定する。 ② 各種名人を様々な分野で設定し、児童みんなで認め合う場を設ける。</p>	
<p>取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>学校行事や教科・領域指導・読み聞かせ・放課後ステップアップ教室・見守り隊活動・交通安全指導・防犯・防災訓練などの取組への家庭・地域の参加を図る。</p>	
<p>指標 学校行事への参加を促すため、手紙やホームページなどで月2回以上参加を呼び掛ける。</p>	
<p>取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>学校だより・学校ホームページを通して情報を発信し、学校の取組に対する情報の共有を推進する。</p>	
<p>指標 ① 情報の共有を図るため、学校ホームページを週2回以上更新する。 ② 学校ホームページの年間アクセス数を18000以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p>	
<p>【取組内容】について</p>	
<p>今後の改善点</p>	
<p>【目標設定について】</p>	

大阪市立十三小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと） ○ 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率6割以下の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。 ○ 平成29年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率7割以上の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。 ○ 平成29年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルランの平均の記録を、前年度より10ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 <p>(施策6 国際社会において生き抜く力の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 <p>(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子50点以上、女子53点以上にする。 ○ 学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1, 2年）」「9時30分までに寝ていますか（3, 4年）」「10時までに寝ていますか（5, 6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、3～6年生の国語と算数における習熟度別指導を充実させる。	
指標 学校アンケートにおける「習熟度別授業は自分のペースにあってるので授業内容が理解しやすい」と答える児童を80%以上にする。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 全学年で毎日課題（宿題）を提供し、学習習慣の定着をはかる。	
指標 ①課題の提出率を85%以上にする。 ②1日10分以上読書をする児童を70%以上にする。	
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 各教科・道徳や領域指導において、コミュニケーション力の育成を図るために、言語活動を取り入れた授業を行う。	
指標 各教科・道徳や領域指導において、コミュニケーション力の育成を図るために、ペア交流やグループ交流・全体交流など言語活動を取り入れた授業を1日に2回以上行う。	
取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 持久力をつけるため、かけ足運動を推進し体力向上を図る。	
指標 体育の授業の準備運動として、各学年の体力に応じて持久走を行い、児童の体力向上への意識を高める。	
取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 よい姿勢で座ることを児童に意識させることで、学習に向かう構えをつけさせ、集中して取り組むことができるようになる。	
指標 「よい姿勢の約束」を教室に常掲し、授業の最初に確認することで、日ごろからよい姿勢で学習するように意識させる。	
取組内容⑥【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 各教科や領域指導にICT機器を活用し、授業を行う。	
指標 各教科や領域指導でICT機器を活用した授業を週2回以上行う。	
取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 総合的な体力向上へ向けて「運動チャレンジ週間」をもうけ、体を動かすことが楽しいと思う児童を育てる。	
指標 ① 学校アンケートにおいて「体を動かすことが楽しい」と答える児童の割合を70%以上にする。 ② 体育のミニ研修を学期に1回行い、基礎体力の向上をはかるための指導力を高める。	
取組内容⑧【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康週間、保健指導や学級指導等を計画・実施し、「早寝・早起き」の習慣を身につけさせる。	
指標 ① 「早寝・早起きを意識して生活できている」と、肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。 ② 健康週間を学期に1回設定し、学期ごとに「早寝・早起き」の達成状況をグラフ化して家庭に啓発する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組内容】について

今後の改善点

【目標設定について】